

アサヒグループ 現代奴隷リスク分析（理論分析）結果

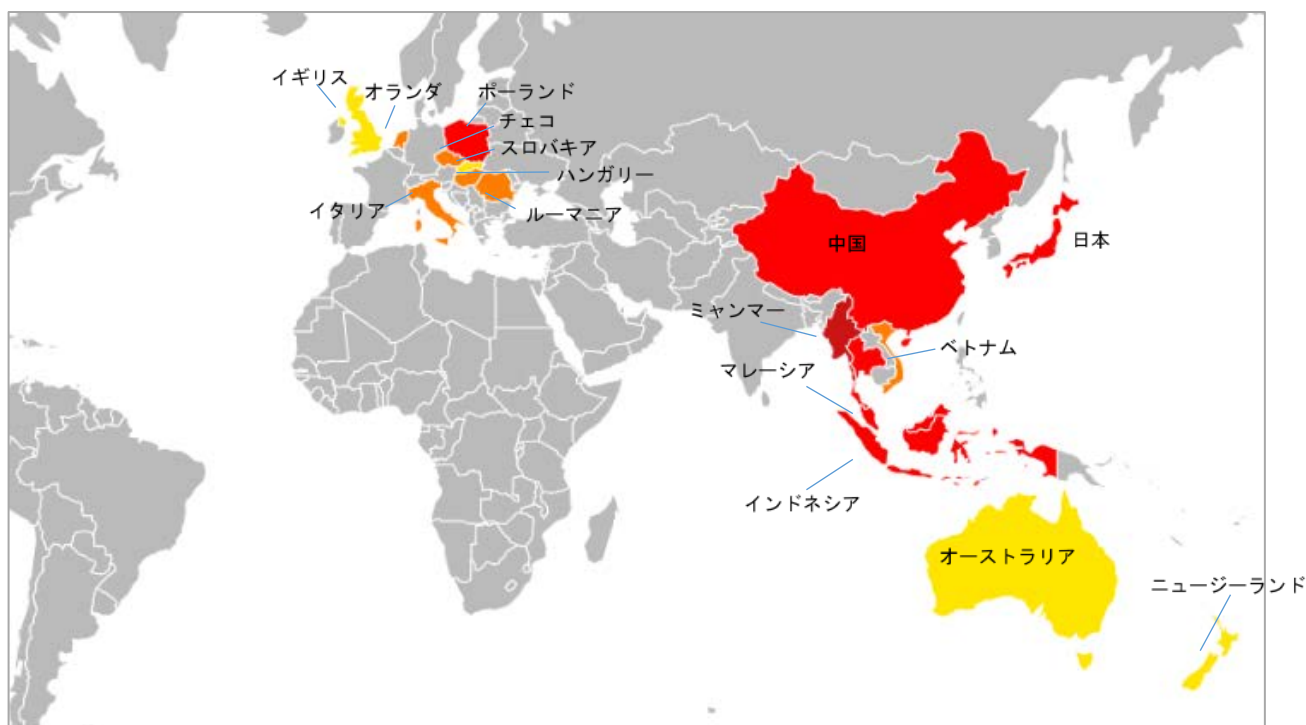
2017年、英国現代奴隷法へのコミットメントを契機に、アサヒグループの生産拠点が所在する17ヶ国、及び、主要調達11品目の2つの側面から、現代奴隷に焦点を当てたリスクの机上分析、評価を行いました。

I. アサヒグループ生産拠点の所在する17ヶ国の現代奴隷リスク分析

アサヒグループの自社工場における現代奴隷リスクを把握する際の参考とするため、自社工場の所在する17ヶ国について、現代奴隷リスクの理論分析を行いました。分析の結果、7ヶ国において現代奴隷リスクが「極高」「高」と分析されました。

アサヒグループ生産拠点所在国の現代奴隷リスク理論分析結果

	国名	国別評価
アサヒグループ生産拠点	ミャンマー	極高
	マレーシア、中国、タイ、日本、インドネシア、ポーランド	高
	チェコ、ルーマニア、ベトナム、イタリア、オランダ、ハンガリー	中
	スロバキア、ニュージーランド、イギリス、オーストラリア	低



※ 生産拠点国：「Fact Book 2017年第2四半期（8月4日更新版）」p.8に記載の「海外子会社生産拠点数」情報に基づく。調査時点における日本国内自社工場は酒類、飲料、食品で36工場。

(Fact Book) https://www.asahigroup-holdings.com/ir/event/pdf/kessan/2017_2q_factbook.pdf

II. 主要原材料調達 11 品目の現代奴隷リスク評価

主要原材料調達品目から、想定されるリスクの程度と調達量をもとに、11 品目を評価対象品目として選定、現代奴隷リスクの理論分析、及び評価を実施しました。

うち、6 品目については、調達している国における現代奴隷リスク分析を行いました。

【6 品目】ホップ、モルト、コーヒー、乳製品、オレンジ果汁、トウモロコシ

また、5 品目については、想定されるリスクの程度と調達量をもとに対象品種を絞り込み、現在生産されている国におけるリスク分析を行いました。（当社の調達先かどうかは考慮対象外）

【5 品目】パーム油、砂糖、茶、カカオ、コメ

アサヒグループ調達主要 11 品目 現代奴隷リスク理論分析結果



同じ農産物の栽培であっても、国や地域によって現代奴隷リスクの高さが異なりました。

主要調達品目別現代奴隷リスク分析結果上位品目と調達国

取扱品目	国名	国別評価
コーヒー・栽培	エチオピア・タンザニア	極高
	グアテマラ・コロンビア	高
砂糖・栽培	タンザニア・エジプト	極高
	中国・南アフリカ	高
コメ・栽培	パキスタン	極高
	インド・タイ	高
茶・栽培	タンザニア	極高
	ケニア・中国・インド	高
カカオ・栽培	ガーナ・バブアニューギニア	高
パーム油・栽培	マレーシア・タイ・バブアニューギニア	高

また、バリューチェーンにおける現代奴隷リスクは、「栽培」がもっとも高いと分析されました。

バリューチェーンの現代奴隷リスク分析結果 ※

バリューチェーン・カテゴリ	評価結果
A. 栽培(Growing crops)	高
B. 加工・製造(Manufacturing/Processing)	中
C. 倉庫・輸送(Warehousing and support activities for transportation)	中
D. 卸売業(Wholesale)	低

※ 分析は、EC（欧州共同体）における経済活動の統計的分類（EU: The EU classification of Economic Activity（Rev.2 2008））に沿って経済活動をカテゴリ分けし、欧州復興開発銀行 環境社会リスク分類（EBRD Environmental and Social Risk Categorisation）の社会リスクの結果を反映

■ 評価方法について

I、IIとも、評価にあたっては、ウォーク・フリー・ファンデーション（Walk Free Foundation）の「世界の奴隷指数」（The Global Slavery Index 2016, <https://www.globalslaveryindex.org/>）の現代奴隷の人数、現代奴隷人数の人口比、脆弱性、国の対応の評価結果等を利用しました。

今後、この理論分析の結果を、現代奴隷に関するリスク特定に向けて活用していきます。

* * *